

# 2014年度NIE 実践指定校報告書



Newspaper in Education

松 阪 市 松 尾 小 学 校  
鈴 鹿 市 一 ノ 宮 小 学 校  
南 伊 勢 町 南 島 中 学 校  
朝 明 高 校  
セントヨゼフ女子学園高校・中学校  
桑 名 市 藤 が 丘 小 学 校  
伊 勢 市 中 島 小 学 校  
四 日 市 商 業 高 校

# 新聞でいきいき学ぼう！！

## ～言語活動の充実・主体的な学びを目指して～

松阪市立松尾小学校

教諭 野口 理恵

### 1 はじめに

私が新聞を活用した授業づくりに出会ったのは、前任校でお世話になった先生の実践がきっかけである。そこで見た子ども達は、新聞を自由に読める環境が与えられ、自ら決めた課題で主体的に学ぼうとする姿があり、いきいきと学習していた。今年度は、NIE実践の指定を受けたことで、先行研究を参考にし、子ども達がいきいきと学習できる場づくりに取り組んでいきたいと考えた。

### 2 実践内容

#### (1) 新聞切り抜き作品コンクールに向けて

ある日の予定に「新聞学習」と書くと、子ども達は「何のまとめ新聞？」と尋ねてきた。学習の振り返りをする「まとめ新聞」の活動をこれまでの学年でいくつか取り組んでいるので、新聞を読むことより新聞を作るの方が、子ども達にとって馴染み深いのである。

新聞切り抜き作品は、簡単に言えば、新聞記事で新聞を作る実践なので、これまで子ども達がしてきた学習形態の延長で、広げて活動できると考え、新聞切り抜き作品に取り組んでみることにした。10月には、NIEコーディネーターの加藤さんに来ていただき、受賞作品を見せていただきながら、作品に込められた子ども達のメッセージを考えることができた。記者はどんなことを伝えたかったのか、また何を感じたかなど、意見文が書けるように記事を読んでいくことを教わった。

新聞わくわく  
講座



#### <成果>

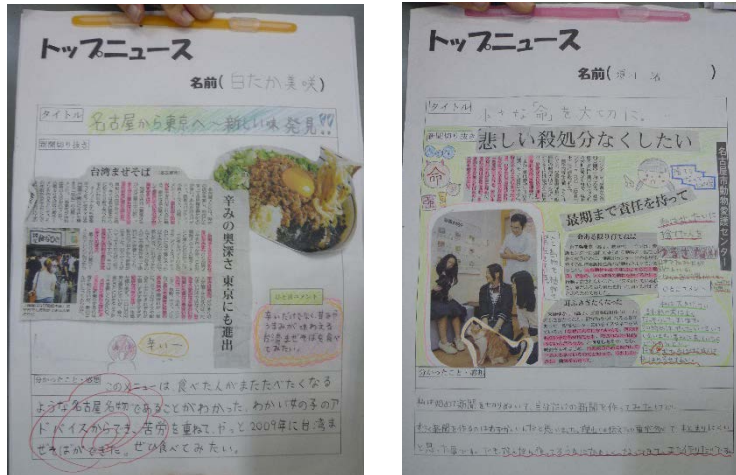
作品作りの活動で得た成果の1つは、言語活動の充実である。5年生国語科では、説明文を要約する力が求められているが、作品作りの過程の中で記事を要約し、小見出しを付けて分類するといった活動が自然になされた。

また、2つ目は他教科との合科である。デザインの構成（図工科）、グラフの読み取りや地図帳での位置確認（社会科）など各教科で身に着けたスキルを実践する場が与えられ、子ども達は疑問に思ったことや詳しく調べてみたいことを自分の課題に沿って学習することができた。



## (2) 自主学習ノートと今週のトップニュース

9月から毎日7社の新聞が届けられるようになり、学校で新聞が読めることを楽しみ、休み時間に新聞を読んでいる子が出てきた。また、家庭で記事を探してスクラップする子が出てきて、主体的に学ぶ姿勢や保護者の理解・支援が得られていることが分かる。



新聞を継続して読み続ける手立てとして、週に1回記事を紹介する活動「今週のトップニュース」を行った。中には、毎週同じテーマの記事を紹介する児童もおり、問題解決がどのようになされていっているのかを考えることができた。例えば、「先生、今日で御嶽山の噴火から2か月たったね。」とつぶやいた子がいた。毎日のように新しい事件・事故など課題が次々と伝えられる中で、1つの出来事を大切に考え記憶する姿勢を子どもから学び、新聞はそれができる有効な媒介であることを実感できた。



## 3 まとめ

1年目の実践では、子ども達が新聞に親しみ、作品作りに熱中する姿が見られた。また、新聞の整理整頓、作品作り後の教室の片づけなど、みんなで使う新聞や友達の記事を大切に扱うことなどから、子どもたち自身が満足いく学習ができたことが分かった。



自身で課題を選ぶことは、子ども達の主体的な学びにつながり、いきいきと学ぶ活動に有効だったと考える。これからも、子どもの実態に合わせた新聞学習への取り組みをしていきたい。

# N I E実践報告 ～4年生の取り組みを中心に～

鈴鹿市立一ノ宮小学校  
教諭 伊藤 俊介

## 1 はじめに

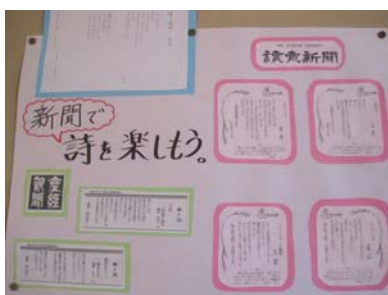
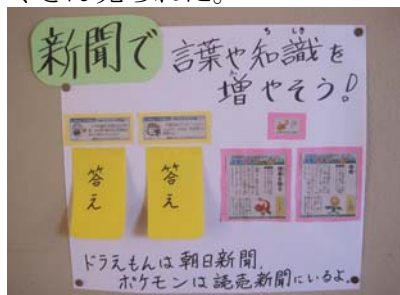
新聞を活用した学習は、物事を多面的・多角的に捉えて自分の考えを深めたり、考えたことを自分の言葉でまとめ伝える力をつけたりするのに有効なツールの一つである。しかし、本校では、新聞を購読している家庭が半分程度という現状がある。そのため児童が社会的事象に関わって考える機会をもつのが、学習中もしくはテレビやインターネットを通してというのがほとんどで、新聞はあまり身近でない。そこで学習のねらいを達成するのに新聞を使うことが有効であると思われるところで新聞を活用したり、普段から新聞を読めるような取り組みを進めたりすることで、児童の社会に対する関心を高めながら、思考力・判断力・表現力を高めていきたいと考えた。

## 2 実践内容

本格的な取り組みは、2学期から始めた。7社の新聞を取り、4～6年生に5週間ずつ、新聞を置くスペースを設置してもらい、児童が自由に目を通せるようにした。読み終わった新聞は、新聞社ごとに分けて職員室前に置き、全職員が自由に使えるようにした。

### ① 壁掲示の作成

本格的な取り組みを始めるにあたり、子どもたちにまず、新聞には難しいニュースだけでなく、自分たちの学習や生活に身近で、楽しく読める部分もあることに気付かせたいと思った。そこで、新聞を設置した場所に、掲示物をつくることにした。掲示の内容は、キャラクターが時事ネタや慣用句について説明したりクイズを出したりしているところや、4コマまんがのところを取り上げた。また、2学期の初めには、どの学年も国語で詩を取り上げるので、新聞に投稿された詩が載っているところも取り上げた。興味をもって見ている児童がたくさん見られた。



### ② 月の満ち欠けを調べよう

4年生の理科「月と星」(啓林館)の学習の中で、月の満ち欠けについて調べる学習がある。新聞には毎日、当日もしくは次の日の月の形や日の出・日の入りの時刻が載っている。日直の児童に、新聞の中からその部分を探させ、月の満ち欠けの様子を調べさせることにした。

1週間ごとに並べて貼らせていくことで、月の満ち欠けの移り変わりやその周期が一目でわかり、その日から1週間後にどのような形になるかも考えやすかった。

また、毎日、日直になった児童に新聞を切り取らせに行くことで、どの児童にも新聞を開く機会を与えられたことはよかった。児童にはあえて、新聞のどの部分に載っているかを知らせることをしなかった。そうすることで新聞をめくりながら、さまざまな記事にふれる機会をもてるようにした。

2日(月)	3日(火)	4日(水)	5日(木)	6日(金)	7日(土)	8日(日)
9日(月)	10日(火)	11日(水)	12日(木)	13日(金)	14日(土)	15日(日)
						休刊日

そうした結果、切り抜きながら、「このニュース知ってる!」、「見て見て、この写真。面白いよ!」などの会話が聞こえてくることもあり、児童の会話の中で大きなニュースが話題として上がったり、写真に興味をもったりすることに繋がった。

### ③ アップとルーズの写真を探そう

国語「アップとルーズで伝える」(光村図書 4年下)の単元の最後に、新聞記事で使われている写真がアップなのかルーズなのかを判断させるとともに、写真からわかることと記事に書かれていることを読み取らせ、その写真にすることでどんなことを伝えたかったのかを考えさせるという活動を行った。

初めは全体で、8月に広島県であった土砂災害に関する記事を取り上げた。この記事に使われている写真はルーズのもので、たくさんの土砂や壊れた家があることだけでなく、救助に来た消防士の服に「岡山市」の文字があるという細かいところまで見つけた児童もいた。その写真から分かることと、記事に書いてある被害の様子や起こった場所が広島県という事実から、「この写真にすることで、被害がとてもしどかったことを伝えたかったんじゃないか」という意見や、「遠くからも救助に来ており、救助作業が大変だという状況も伝えたかったんじゃないかと思う」という意見などが出された。「たくさんとった写真の中から、たとえば、壊れた一軒の家だけの写真を使ったとしたら、どうだったか」と考えさせることで、出されていた意見のいくつかは十分に伝わらないことに気付き、何かを伝えるときには、写真やイラストの入れ方を工夫することで、より効果的に伝えられることを実感させることができた。



その後、ペアで新聞から自由に記事を選ばせ、同様の作業を行わせた。その際、新聞を読むときに、文字からではなく写真から興味のあるところを見つけて読む読み方があることも伝えた。

### ④ 詩づくりを楽しもう

鈴鹿市では、毎年「児童詩コンクール」が行われている。

国語の学習で、詩や俳句、短歌などの表現活動をするときには、何を書いたらいいか、どう書いたらいいか迷い、書いたことに自信をもてない児童を見かける。ただ、詩には、表現の工夫として繰り返しなどの技法はあるが、俳句や短歌と比べると「こうしなければならない」という大きな決まりはない。そこで、新聞に掲載されているたくさんの詩を読ませることで、児童が難しく考えすぎずに詩づくりを楽しめるようになるのではないかと考えた。

授業では、繰り返しのあるものないもの、連のあるものないもの、似た種類の言葉を並べて書いたもの、日常の出来事をそのまま綴ったものなど様々な詩を取り上げた。それらの詩を紹介することで、「これなら、自分も書けそう」「自分も新聞社に送ってみたい」と意欲がわき、どの子も手が止まらずに詩をつくることができた。

### ⑤ おうちの人といっしょに新聞を読もう

本校では、毎日宿題として音読を出し、おうちの人に聞いてもらうようにしている。しかし、国語の一単元を学習している間ずっと同じところを読んでいると、聞くほうも読むほうも飽きてきて、適当にこなすことになりやすい。また、全国学力学習状況調査の結果から、児童によりたくさんの文章に触れさせていくことや、書くことにも力をいれていく必要があることがわかった。

そこで4年生では、10月から、初めての文章でも抵抗なく読み取っていけるようになること、自分の考えを書けるようになること、社会への関心を高め、知識を増やすことをねらいとして、週に1回程度、新聞記事の音読を宿題として出すことにした。音読後、わからない言葉があればおうちの人に聞いたり一緒に調べたりするとともに、おうちの人と意見交換をし、考えたことや思ったことを書いてくることを宿題とした。

この取り組みをするにあたって、本校では外国籍の児童・保護者が多くいることに配慮し、小学生新聞の記事を取り上げることにした。また、児童にとって新聞が難しいものと思わないよう、初めのワークシートは、思ったことや考えたことを書くだけの簡単なものにした。

また、取り上げる話題も、できるだけ児童の学習や生活に関連したものや、興味をもって読めそうなものを取り上げるよう意識した。

初めは、「～はすごいと思った。」「～と初めて知ってびっくりした。」といった感想が多く、記事の出来事は自分と「かけ離れたもの」という見方になっていたり、その出来事の背景まで想像したうえでの考えや、「自分はこう思う」などといった意見は少なかったりした。そこで、記事の出来事を自分のこととして置き換えたり、記事で取り上げられている人の背景などにも思いを寄せたりしながら記事を読めるように、見本となる書き方ができている子を取り上げていった。また、活動になれてきたころに、感想を書く欄に字数制限をつけ、決められた条件の中で自分の考えをまとめる力もつけていけるようにした。

ワークシートの裏面にも工夫を行った。発展課題をつくり、その内容も少しずつ変化させながら、児童がさまざまなことに挑戦できるようにした。内容は、記事で使われている語句の意味調べやおうちの人の意見の記述など比較的簡単で取り組みやすいものから、見出しづくりや記事の要約といった難しいものなど、レベルを①～③まで設定した。レベル①は全員に取り組みせるようにしたが、レベル②と③はチャレンジしたい人だけに取り組みせるようにすることで、無理なくできるようにした。

この活動について、児童（98人）にアンケートをとった。結果は以下のようになった。

質問1 新聞を読んで、その内容についておうちの人と話すことは、おもしろいですか。

①おもしろい	36人
②どちらかというとおもしろい	48人
③どちらかというとおもしろくない	12人
④おもしろくない	2人

質問2 おもしろいと答えた理由（質問1で①、②と回答した児童84人 複数回答可）

①世の中のいろいろなことを知ることができるから	50人
②おうちの人や友だちが、どんなことを考えているのかを知ることができるから	23人
③話し合うことで、自分の考えが深まるから	27人
④いろいろな言葉を覚えることができるから	39人
⑤自分の読む力や書く力や話す力がついていくのを感じるから	20人
⑥その他	6人

質問3 おもしろくないと答えた理由（質問1で③、④と回答した児童14人 複数解答可）

①おもしろい記事・興味がわく記事がないから	6人
②むずかしくて、よくわからないから	5人
③その他	4人

#### ⑥ 新聞で他県の小学校と交流しよう（3学期に予定）

3学期の社会科「わたしたちの住んでいる県」で三重県の特色について調べ、まとめとして学習新聞をつくる計画をしている。その際、ただ新聞にまとめるのではなく、三重県のよさを知ってもらうために、まとめた新聞を他県の小学校に向けて実際に発行することを伝える。相手意識をもたせることで、意欲的に活動させたい。また、前任校（茨城県）がかつてNIE実践指定校だったこともあり、相手校からも新聞を送ってもらう予定である。

### 3 まとめ（成果と課題）

- ◎ 保護者の協力を得ながら継続的に読ませていくことで、小学生新聞ではあるが、多くの児童が新聞に抵抗なく親しんでいくことができ、読んだことに対して自分の考えを表現できるようになった。
- ◎ その学習のねらいを達成するために新聞の使用が有効かどうかを考えながら活用していくことで、児童の活動への意欲を高めたり、より多くの気づきを起こさせたりすることにつながった。
- 使用する記事が全て教師側が用意したものであったので、おもしろい記事に出会えない児童もあり、主体的に活用していく力も高めていく必要がある。
- 新聞を購読していない家庭が多く、外国籍の保護者の方もたくさんいるなかで、さらに分かりやすく楽しい実践として、どのような活用ができるかを考える必要がある。

## 本校の新聞活用～「新聞切り抜き作品」づくりを通して～

南伊勢町立南島中学校  
教諭 越賀 弘幸

### 1 はじめに

本校は今年4月に町内2中学校（南島西中学校・南島中学校）が統合し、新しい南島中学校としてスタートした。両校の生徒とも活字離れが進んでおり、新聞を取っていない家庭も何軒か存在する。学校での新聞活用の取り組みとして、旧南島西中学校では9年間新聞切り抜き作品作りを実施してきており、旧南島中学校では2年前に「いのち」に関する新聞記事を集める取り組みをしたことがある。

統合直後の慌ただしい中で、2年間の実践指定校のお話をいただいた。新聞を何部か無料で届けていただけることもあり、夏休みの課題としても有意義な取り組みだと判断し、指定校を受けることになった。しかし、新聞が届く時期が1年目は9月以降であるため、夏休みに集めた記事の追加としての活用になってしまった。2年目は、1学期から届けてもらうことができるので、より有効な活用ができると考えている。

### 2 実践内容

一学期末に全校生徒を対象とした「わくわく新聞講座（新聞切り抜き作品作り講座）」を学年別で実施し、夏休みの課題として、「設定したテーマに合った記事をできるだけたくさん集めてくる。」を与えた。（2、3年生のテーマは『命』、1年生のテーマは自由。ただし担任が認めたもの）



2学期に入り、各学年とも総合的な学習の時間を使って、集めた記事をさらに細かいテーマに分けたり、教室に届けられる最新の新聞から記事を追加したりしながら新聞切り抜き作品を完成させていった。

文化祭では、完成した生徒の作品をすべて掲示し、全校生徒、全職員、来場した保護者、地域の人たちに見てもらい、好評を得ることができた。

### 3 まとめ

統合1年目の本校が取り組む実践指定校1年目ということで、あまり肩に力を入れない取り組みをしてきた。教員側の経験者は少なく、指導や助言も迷いながらの試行であった。しかし生徒たちは、新聞というメディアに触れることで、社会の出来事に興味を持つようになり、そして、膨大な新聞記事の中から自分の意思で選び出した記事を集めることで、自分なりに考えをまとめ、コメントを入れることができるようになった。次年度は、1学期から活動を始め、夏休みを有効に利用して実践を進めていきたい。

## 1. はじめに

朝明高校に通う生徒の家庭で新聞を購入している家庭は約半数と考えられる。(2クラス抜粋でアンケートを実施した。) 本校の進路は、就職者 70%、進学者 30%の内訳になっている。就職者が多い中で社会情勢に全く関心を持たないまま社会に出る生徒も少なくはない。アンケートでは、「新聞を1カ月に何日読むか」の質問に「0日」と答えた生徒が74%いた。「毎日読む」と答えた生徒はわずか6%であった。この現状に、手を打つためにも、毎日、新聞を目に触れる状態に置くことが必要だと考えた。まずは生徒が必ず通る廊下に毎朝、朝刊の一面を掲示し新聞を身近なものにしたいと考えた。また授業では、新聞を活用することにより、様々な点で自分の役に立てることを学んでほしいと考えた。

## 2. 授業実践 ①「新聞掲示」

頂いている新聞7社の朝刊1面を並べることで、ピックアップは前日の話題であり、関心を持ってもらいたいことであることや、各社取り扱う記事の違いや大きさの差を印象的に分かるようにした。その効果として、足を止めて新聞掲示を読む生徒や、ニュースを話題にしコミュニケーションを図る生徒、また毎日楽しみに読む生徒も出てきた。特に就職や進学的面接や小論文などで答える場面もあり、「この内容をもっと詳しく教えてほしい」など興味を向ける生徒が出てきた。また生徒だけでなく、教員も「家で読めなかった日は助かる」と重宝されている。

①各社 朝刊1面



②1社のみ10日分掲示



③抜粋記事



④熟読用座席



写真①②③進路指導室前で毎朝、新聞の掲示を行う。

写真④本日の新聞と昨日の新聞を手軽に読めるように座席が用意してある。

## ②「働くことを意識した授業実践」2年生『ビジネス基礎』

アンケートで「家族は新聞を読んでいるか」の質問では、「はい」が46%、「いいえ」が41%であった。新聞離れは親の世代からあり、その影響は子どもに顕著に現れている。新聞を読むことに慣れていない生徒にはまず新聞の読み方を教えないといけない。実際に生徒はこの講座後、どのように新聞を読めばいいか分かったと答えている。

次に、「働くこと」に関する記事をピックアップし、テーマごとに分け、働く現状や問題点、社会の変化に対応した働き方や、女性の活躍に伴う労働改善などについて発表を行った。この授業では卒業後の早期離職や、非正規雇用選択の抑制に向けてよりリアルタイムな情報を得るためであり、自分ならどうするかを考えるきっかけにしたかった。生徒がどのように受け止め考えたかは、3学期の授業で話し合うことになる。

⑤1分間スピーチ



⑥記事を切り抜き



⑦テーマごとに分ける



⑧発表



## まとめ

新聞を教材に使った授業後のアンケートで、「新聞に対する印象」を聞いたところ、「情報が正確で、将来に役に立つことがよくわかった。しかし、内容は難しく、分かりにくい。そして面白くない。」と答える生徒が多かった。大人は、テレビ報道では分からなかった詳しい情報を新聞から得ようとするが、生徒は、そこまでまだ読み説く力がないことは課題ではある。今後、新聞を読む楽しさや、有益性をもっと伝えていきたい。



新聞を活用して多様性に気づく指導  
～自己を掘り下げ、他者との違いに気づく～

セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校  
教諭 滝沢昌彦

1 はじめに（新聞活用の動機とねらい）

本年度よりセントヨゼフ女子学園が私学のNIE実践校となった。新聞を読むことで、まずは社会のさまざまな話題に触れさせたい。また、記事に触れる中で、今まで気づかなかった自分の新たな一面を知り、また他者との違いに気づくことができる。これらの取り組みを通してキャリア教育の一助としたい。

2 実践内容

(1) 新聞リレー（高校1年HR、資料1）

各クラスで、一人が記事を選び要約→次の人が感想を書く。

(2) 好きな記事の切り抜き作品作り（中学3年国語）

一人につき一紙を与え、自分の好きな記事を選ぶ。その記事の①要約・②記事を選んだ理由、を色画用紙に書く（資料2）。

(3) 英語記事の活用（中学3年英語、資料3）

英語記事についてのプリントを教員が作成し取り組む。

(4) 新聞コラムの感想や意見を書く（中学3年国語）

(5) 新聞記事を紹介し発表する（高校3年国語表現）

(6) 新聞の1面比較（中学3年公民）

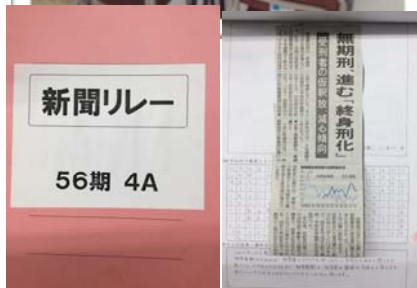
(7) 世界の話題の要約（高校2年地理）

3 まとめ

(1) 新聞リレーでは、他者の選んだ記事の感想を書くことで、自他の違いに気づくことができた。生徒は記事を選ぶために広く新聞に目を通し、目的とする様々な話題に触れることができた。(2) 好きな記事の切り抜き作品作りは、好きな記事を選び要約・選んだ理由を書くことで、自己についてより深く知ることを目的とした。これらの活動により、自己を知り、他者との違いに気づくことができた。これらは、自己のアイデンティティーを認識し、将来の進路選択に生きるもので、キャリア教育につながっていくものと考えている。

(3) 英語記事の活用は、記事にある単語を取り上げたり、話題について話し合わせることで、英語の学習と日常を結びつけることができた。

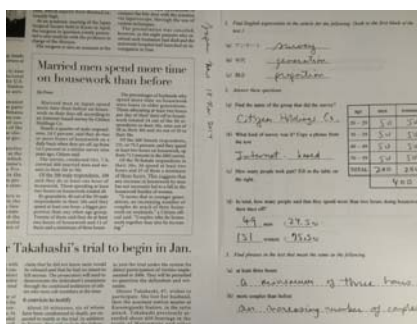
(4)～(7)の活動については、各教科で積極的に取り組んだ結果である。いずれも視野を広げることに役立ち、また他者との違いに気づいたという生徒の意見が多かった。



(資料1)



(資料2)



(資料3)

## 新聞を活用した授業づくり

桑名市立藤が丘小学校

教諭 川端 信也

### 1 はじめに

本年度、NIE実践指定校として、2年目になる。1年目の反省として、児童が興味を示しそうな新聞記事を見つけては紹介したり、教師が選んだ記事をもとに授業を行ったりしたが、児童が主体となって新聞記事を活用する機会が少なかったことが挙げられる。そこで、自分で新聞に慣れ親しむことと、児童の実態から、自分の考えを表現する力を養うことを目標に新聞記事を活用しようと考えた。

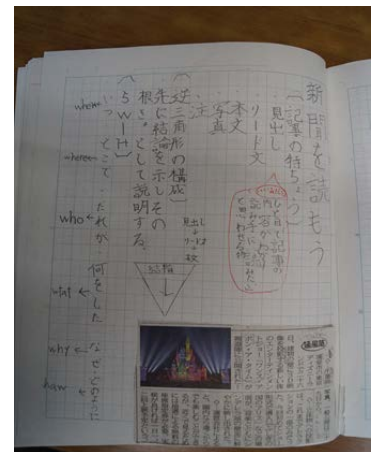
### 2 実践内容

#### 「新聞を読もう」(5年)

新聞の基本的な構成を学ぶために国語科「新聞を読もう」を導入教材として扱った。教科書で「見出し」、「リード文」、「本文」、「図」、「写真」、「注」など主なものを取り上げて学習した後、実際の新聞を活用して構成を確かめた。次に同じ内容の二つの記事を読み比べて新聞の編集の仕方や書き方について気づいたことを交流した。写真や見出しがちがうことによって、意見や考えの伝え方、読者の印象が変わることを話し合った。

そして、自分の気に入った新聞記事や興味のある新聞記事を切り取って文章を読み、要旨をとらえる活動を行った。(要旨とは筆者が文章で取り上げている内容の中心となる事柄、それについての筆者の考えの中心となる事柄のことである。)始めたばかりのころは記事の内容を要約することはできても、そこから自分の考えを持ち、表現することができる児童は非常に少なかった。(要約とは大切な言葉(キーワード)を入れて、わかりやすく短く、文章全体をまとめることである。)

そこで「要旨をとらえること」、「自分の考えを明確にして書くこと」を目標に6月と10月に二回授業を行った。加えて、日直になったとき自分の書いたものを朝の会で発表させた。そのとき、発表の内容に、疑問や自分の考えを持って聞くよう意識づけた。

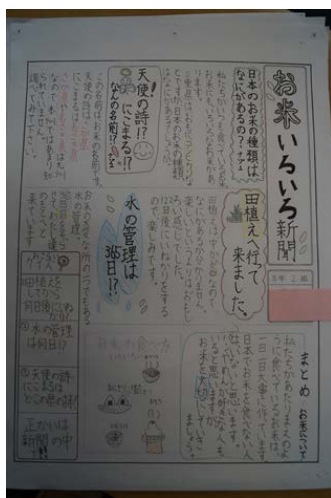


#### 「新聞づくり」

新聞の特徴や見出しの工夫、記事の書き方等を学び、新聞づくりに生かした。新聞づくりでは「自分が伝えたいことは何か」「それを読者に伝えるためには」という点を大切にして指導を行った。まず、記事の数を考え、レイアウトを考えさせた。その時に図やカットを考え、グラ

フや表なども取り入れて読む人にわかりやすい新聞を心がけるようにさせた。また、見出しは、読み手を引き付け、一目で内容がわかるものがよい見出しであることを確認した。社会見学後には、学習したことを新聞形式にまとめたり、夏休み新聞と題して、自分の夏休みの様子を新聞にまとめたりした。

また、係活動で週刊のクラス新聞を発行する活動を行った。



### 3 まとめ

2年間の取り組みを終えて、改めて新聞の情報量と話題の豊富さに感心させられた。新聞記事を有効に活用することで児童に語彙力や表現力、自分で考えて判断していく力を付けていくことができるだろうと感じた。実践を行っていく中で、児童は新聞記事を読むことで新聞に慣れたり、記事に対して自分の考えをもつよう意識するようになってきたり、授業の中で地域のことなどを知ることができた。今まで新聞を開くことすらなかった児童にとっては新聞が大変身近なものになったようだ。また、実践者自身も「ここでこれを使おうか。」「こんな記事も出してみたらおもしろいかもしれない。」と新聞を活用することで授業の幅が広がり、視野が広がったように感じる。しかし、決められた教育課程の時間の中で計画を立てたが、十分に新聞を活用できなかつたことが反省点である。また、語彙力や表現力が取り組みに大きく影響するため、学年に応じて新聞の取り上げ方が難しいと感じた。

NIE実践の活性化のためには、限られた授業時間の中でどのような場面での活用がより効果的か考えていくこと、日常的に継続して取り組める方法を工夫していくことが大切である。今後も学級の実態に応じて取り組みを継続していきたい。



# 「自分が好き 友だちが好き みんな大好き」

～新聞学習を通して、伝えあい、認めあえる子どもをめざして～ 2年次

伊勢市立中島小学校

教諭 武久 隆弘

## 1 はじめに

本校では、学校教育目標である「心豊かな学力と健康な身体をもち、主体的、創造的な活動のできる子どもの育成」を基盤に、平成25年度から「学校における食育推進のための研究事業（伊勢市教育委員会指定）」に取り組んでいる。具体的には、子どもたち一人ひとりに、これまで取り組んできた基礎基本の力をつけながら、「食」という視点から子どもたちをみつ



め、その成長を支援していく中で「自分を大切にできる子」「友だちを大切にできる子」「クラス、学校、保護者、地域を大切にできる子」をめざしながら取り組みを展開してきた。

そして、「見守っていききたい子ども」を活動の中に位置づけ、「食」を通して「伝える力」をつけることに重点目標を置き、授業実践に取り組んだ。主体的に創造的に活

動できるようにするためには、子ども一人ひとりが、安心して自分の思いを出せる仲間づくりと、自分の思いをしっかり伝えあえる力の育成が大切であると考えている。さらに「話す」「伝え合う」「認め合う」につながる取り組みを確かなものとするため、言語活動という観点から「新聞記事」の読み取りを推し進め、様々な記事の中から「食」に関するものを探し出し、学習全般に活用した。



以上のように本年度は、N I E実践推進校2年目として、「食育」と「新聞学習」とをコラボする実践を試みながら、「新聞」や「学級通信」を活用することを通して、新聞に親しみを持てる児童の育成を図ってきた。

## 2 実践内容

### (1) 新聞で朝学習① ～新聞に親しもう～

毎朝、学級通信の音読を行っている。学級や学校での出来事、児童の様子、担任の思いなどを写真とともに掲載した通信を、朝学習の時間帯に全員で音読して、1日の学校生活が始まる。

また、その通信の裏面を利用して、新聞学習も実施している。具体的には、写真と文が結びついている記事や、小学生や中学生の投書欄に掲載された文章を読むことを行っている。漢字さえ読めれば、新聞記事から情報をたくさん仕入れることもできるので、社会科の学習というより、雑学感覚で新聞に親しみをもって欲しいと思う担任の投げ入れで活



動を始めた。新聞記事を通して、家族の会話の幅を広げてもらうことも視野に入れている。

今年度担任した4年生は、年度当初は昨年度の2年生同様、読めない漢字がたくさんあった。また新聞記事、それも国際紛争など、政治・経済分野など全く何のことも理解できない状態が見受けられた。ダイレクトに新聞記事をぶつけたのでは、新聞嫌いが生じることは目に見えていたので、努めて身近な話題を扱った記事を活用することとした。

新聞学習デビューとして、新聞記事を読むというよりは、新聞で楽しい記事や面白い記事、学校全体で取り組んでいる「食育」に関わる「食」に関する記事を中心に提供したので、時間の経過とともに、普段は新聞に関わりの少ない児童も次第に、「新聞っておもしろいものなんやね。」「新聞って、色々なことが載っているのやね。」との感想を持ち始めた。

## (2) 新聞で朝学習② ～記事を読んで感想を書こう、発表しよう～

新聞記事に対する興味関心が芽生えてきたのを確認し、次のステップとして、実際に新聞



記事を読んだり写真を見たりしての感想を書かせることを始めた。少しでも記事に親しみが持てるように、ほのぼのとしたカラー写真が載っていて、身近な話題となる記事を選ぶことに心がけた。三重県版や伊勢志摩版など、ローカルな記事であればあるほど、児童は興味を示し、楽しんでいる様子うかがえた。

そして、見出しを写させるとともに、記事や写真について思ったことや感じたことを感想欄に書かせ、毎朝数人に発表させ、自分の思いを学級の仲間に伝え、認め合う場づくりとしてきた。ただ、すべての記事を自分の力だけで読みこなすことは困難なので、見出しや写真のイメージだけで感想を書いてもいいことを伝えた。現在でも、感想を記入した通信を集める前に担任が記事を音読するとともに記事の内容に関する解説を加え、少しでも記事に対する興味関心が高まるようにしている。一旦集めた通信は、休憩時間などを活用して担任が目を通し、赤ペンでひとことコメントを記入して返却し、児童との心のキャッチボールとしている。

## (3) 「食育」<sup>コラボ</sup> × 「新聞学習」① ～食に関する情報を新聞記事から見つけよう～

本校では前述の通りここ2年間、総合的な学習の時間や生活科の時間を中心に、「食育」に関する取り組みを行ってきた。その中で4年生には、野菜が苦手な児童が多数いたので、「野菜嫌いの克服」を学年の学習テーマとして定めることとした。児童が「食」に関する興味関心を持ち、野菜に対する親近感が高まればと考え、「食に関する情報を新聞記事から見つけよう。」と課題を設定し、授業で取り組ませた。



具体的には、N I E実践推進校用に新聞協会から提供された新聞を活用し、紙面に掲載さ

れた「食」に関連した記事を切り抜いてプリントに貼付し、感想を書き込み、「食」について色々な角度から見つめ直す作業を繰り返し行わせた。いつもの朝学習同様に、記入する内容は、次の通りとした。

- 1 題名（見出し）を写しましょう。
- 2 知っている漢字にマーカーで線を引きながら、記事を読みましょう。
- 3 記事を読んだ感想を書きましょう。

児童一人ひとりが、一生懸命に新聞紙面の中から「食」に関する記事を見つけ出し、思い思いの感想を書き綴っていく姿を見るにつけ、させられている学習ではなく、自分のために意欲的に行う学習として定着していることを実感した。

数ある記事の中で一番人気は、中日新聞朝刊「ジュニア中日」（日曜日）の定番コーナー「リトルシェフの作ってみよう！」であった。今後も新聞を活用しながら「食」への理解を深め、調理を行っていくことをみんなで確認した。



#### (4) 「食育」<sup>コラボ</sup> × 「新聞学習」② ～「リトル・シェフの作ってみよう！」に応募しよう～



こととした。

具体的には、夏休み明けからこのコーナーへの掲載を目指し、班単位で調理・試食会に向けた活動を開始した。各自が作成したレシピのジャンル(炒め物・サラダなど)ごとに班編成を行い、それぞれの班がレストランを開設。店長・コック長といったリーダを中心に、「リトル・シェフの作ってみよう！」コーナーに応募することを視野に入れたレシピづくりをし、実際に家庭科室で調理と試食会を行った。試食会後は、5つに分けた各班が、模造紙に「リトル・シェフの作ってみよう！」への応募内容をまとめてプレゼンをし、他の班の児童と調理方法や料理のネーミングについての質疑応答を行った。また、調理実習でお世話になったお母さん方にもゲストティーチャーとして授業に参加していただき、

中日新聞の「リトル・シェフの作ってみよう！」というコーナーは、児童にとって「簡単に調理でき、こんな料理なら食べることができそう。」と、とても好評だったので、野菜嫌いを克服するための「食育」学習の柱にすえる



コメントをいただき、「野菜のおいしさ」や「各自の食に関するめあて」などを共有させ、応募用のレシピを吟味・推敲することができた。そして、「伊勢市立中島小学校4年2組プロジェクト・野菜料理レシピ」として、「リトル・シェフの作ってみよう！」コーナーに応募した。

### 3 まとめ（実践の成果と課題）

児童にとって当初「新聞学習」は、新聞記事を読まされている感があり、「何で、朝学習で新聞を読まなければいかんのやろ。」という声もよく聞こえてきた。しかし日を重ねるにつれ、新聞記事を読み感想を書くことが当たり前となり、毎朝の習慣となっていった。

大多数の児童が、新聞を読むことが読解力の向上につながると認識し、学級の半数の児童が新聞をよく読むようにもなってきた。さらに後期からは、情報を得ながら実生活に活かして



ていくために、交代で2人ずつの児童がその日の朝刊から記事を選び、自分でプロジェクターを活用して記事を投影し、みんなの前でコメント発表をするということも始まった。最初はぎこちなかったが、新聞を使っての発表にも少しずつ慣れてきた。「ゆるキャラ・B1グランプリ」といったわかりやすい話題から、「御嶽山噴火・日銀追加金融緩和・オバマ敗北・ノーベル賞受賞」といった社会性のある事象まで、幅広い記事

を選ぶようになってきた。合わせて「食」に関する記事を切り抜いてプリントに貼り付け、感想を書くという作業を学年全体で取り組んだこともあり、児童の「食」に関する興味関心もさらに高まった。書籍やインターネットでも様々な情報を得ることは可能であるが、新聞記事には「活用したい、保存したい。」と思えば、すぐさま切り抜いたり、書き込みをしたりすることができるという長所があるため、児童が新聞を活用する機会も大いに増えた。

これまでNIE実践指定校として、無理をせず、まずできることから取り組みを行ってきた。それまでは、あまり新聞を見たり読んだりしたことがなかった児童も、少しずつではあるが新聞に興味を示してきたように思う。児童が学級通信「たけのこ」を家族に見せる際に、通信の内容とともに、裏面に印刷してある新聞記事が話題となり、家族間の会話も増えてきたと、個別懇談会の際に保護者から感謝の言葉もいただいた。

新聞を活用しての学習は、まだまだ十分な成果をあげてきたとは言えないが、パソコンやスマホ、ケイタイ、ゲーム機など、文明の利器が児童の生活環境に大きな影響を与える傾向にある中、新聞は活用方法によっては、まだまだ大きな役割を秘めていると思う。これから引き続き、学校現場において児童の発達段階に合わせて、他学年にも新聞の活用を呼びかけたい。そして新聞記事を活用することを通して、刻々と変化していく社会情勢をタイムリーに伝え、児童自らが様々な情報の真偽を判断することができるよう支援していきたいと思う。

この2年間、NIE実践指定校としての活動を支えてくださった方々に、この場を借りて御礼申し上げたい。

## 四日市商業高等学校での新聞活用実践

三重県立四日市商業高等学校

教諭 弓矢 伸一

### 1. はじめに

インターネットやスマートフォンの普及から、本校の生徒の中でも新聞を取っていない家庭が少なくない現状があります。確かに前述のメディアは知りたい情報をすぐに得ることはできますが、そこに付随する情報が少なかったり、本当に正しい情報なのかどうか保証されたものではありません。また、情報の更新が激しくて、もう一度調べ直しを望んでもかなわない短所があります。しかし、新聞は知りたい情報を何度でも見ることのできる記録性にすぐれ、またあらゆる情報が1誌に集約されています。

今年の実践の中心に、この情報量の多種多様さを武器にして、生徒の学力向上を目指しました。

### 2. 実践内容

#### (1) 3年生 『課題研究(株式模擬売買)』 経済分析

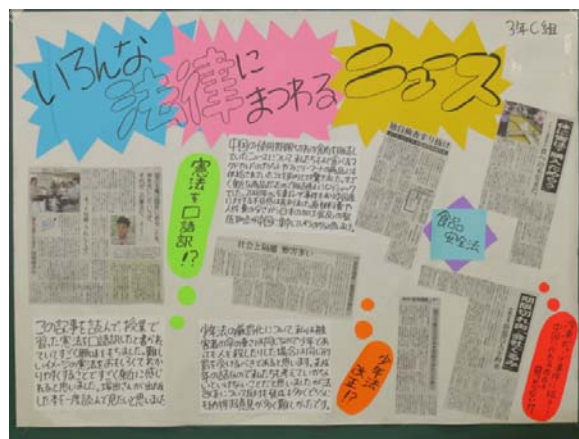
東京証券取引所のオンラインシステムを利用し、実際の株価に基づいて模擬売買を行うシミュレーション授業をしている中で、「アベノミクス」は知っていても、その実態を理解できる生徒は誰もいません。そこで、2人1班で16名の生徒に、全国紙6社による経済ニュースを1週間単位で拾い読みさせ、翌週にはどのような変化が起こったか、合計8週間分の連続調査を実施しました。従前より株価の変化やインターネットニュースで把握しようとしてきましたが、世界経済が日本に及ぼす影響の情報量が限定されていたため、生徒の理解が進みませんでした。しかし、この実践によりドミノ倒しのように波及する経済社会の理解が深まりました。

#### (2) 3年生 『経済活動と法』 新聞切り抜き作品の作成

商業高校では、3年生の選択授業で法律を教えるのが一般的です。しかし、法律用語が難しく向学心が上がりにくいのも現実です。

そこで、身近な法律問題や社会問題を取り上げて法律を身近に捉えてもらおうと、新聞切り抜き作品作りを実施しました。

自分の意見をまとめ、発信する課題ですが、中国からの食品の安全性が失われたニュースがありました。安倍内閣誕生からの憲法問題が続き、集团的自衛権を取り上げる生徒が大半でした。





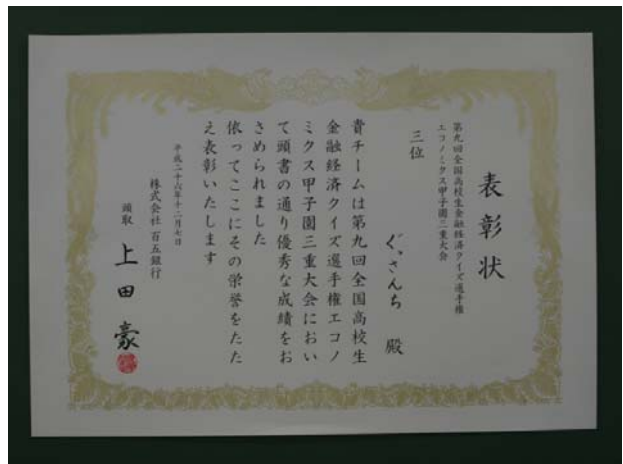
### (3) 新聞の投書欄を活用した朝学習

新たな取り組みとして、毎週水曜日のSHRの時間に2学年全体の朝学習に新聞活用が加わりました。学年主任を中心に新聞の投稿欄から社会性のある内容を選び出します。そして、生徒はまず投書文面を写します。そして、翌週には投書文面に対する自分の感想を記載します。現実社会のさまざまな意見表明を学び、「自分の考えを持つ」、「コミュニケーション能力を身につける」等、生徒の能力向上を図ります。また、将来的には批評力が向上すれば、新聞社への投稿も視野に入れていきます。

## 3. まとめ

### (1) 成果

3年生『課題研究(株式模擬売買)』の授業選択生徒は、金融や経済に関する知識の知識力を試す目的で、日本銀行内に組織されている金融知力普及協会主催の、「エコノミクス甲子園」三重県大会に全員参加します。「政治・経済」を学ぶ進学校の生徒と商業科の生徒が競い合う図式になっています。ただ、商業高校で経済を学ぶのは多くの科目のひとつに過ぎません。しかし、新聞を活用するNIE教育を実施したおかげで、女子チームが3位入賞を、果たせました。生徒の努力が導いた大きな成果です。



### (2) 課題

全国紙が無料で毎日配達して頂ける絶好の機会を得た訳ですが、この恩恵を全校生徒と教職員と共有することに思案しました。

誰でもが、いつでも見たい時に手に取れることが肝要と思いました。

おかげで、2年生担任団から朝学習の活用へと実践の輪が広がりました。

活字離れが言われて久しいですが、生徒の国語能力は下がっています。

この流れを止めるためにも、多くの学校でNIE教育を活用されます事を祈念いたします。

